

「大阪医療問題連絡会」との協議等議事録（要旨）

健康局

1 日 時 令和7年8月19日（火）14時30分から16時00分まで

2 場 所 市役所地下1階 第1共通会議室

3 団体名 大阪医療問題連絡会

4 協議等の趣旨 大阪関西万博の医療・救護体制等についての質問とご懇談のお願い

5 出席者

（団体側）

4人

（本市）

健康局 3人 消防局 2人 危機管理室 1人

6 議事

（1）万博会場の医療救護体制等について（項目番号2.③）

団体要望概要

- ・万博会場内で毎日何人の患者が発生しているのか、その内訳（中等症、重症）も教えてほしい。また、基本計画等の事前計画では大阪府市、大阪市消防局及び博覧会協会の3者で連携を図るとなっているが、日々の発生状況について情報共有は図られているのか。
- ・博覧会協会が公表している万博会場内の救急搬送件数を調べると非常に少ないがどういうことか教えてほしい。
- ・万博会場内で発生した患者の内、救急搬送が必要な患者は何名ほどいるのか教えてほしい。
- ・診療所等に設置されているベッド数が70床ほどあると聞いているが、その配置の内訳を教えてほしい。
- ・救護隊のメンバーはどう構成されているのか教えてほしい。
- ・救急車の配備や運用はどうなっているのか。

本市説明概要

- ・万博会場内で発生した救急事案については、基本的に博覧会協会が運営する医療救護が対応することになっている。医療救護施設で対応した状況を消防局でもすべての事案を把握できておらず、日々のデータ共有もされていない。
- ・博覧会協会が公表している救急搬送数は万博会場内（各ゲート外のエントランス広場を含むエリアであるが、大阪メトロ夢洲駅は含まない。）で発生した事案、かつ、会場時間中に医療救護が対応した事案であるため、救急搬送数が少なくなっている。大阪市消防局が対応する救急事案には、万博会場内で発生する事案の他、万博会場外の大坂メトロ夢洲駅等

で発生した事案にも出場するため、博覧会協会が発表する救急搬送件数と異なる。

- ・大阪市消防局では8月18日現在（開幕128日目）で、万博会場がある夢洲内で発生した救急事案は690件である。
- ・診療所等のベッド数の内訳については、西ゲート診療所25床、東ゲート診療所12床、リング北診療所12床、その他5カ所の応急手当所には各5床の合計74床設置している。
- ・救護隊は看護師や救急救命士等で構成されている。
- ・万博エリア内には万博消防センターがあり常駐の救急隊1隊を含め、会場時間中は最大4隊の救急隊を万博会場に配備できる体制を整えている。万博消防センター以外の救急隊については、市内各地の消防署等から移動配備という形で運用している。

（2）万博会場における熱中症の対策について（項目番号2.③）

団体要望概要

- ・会場内における熱中症について毎日何人の患者が発生しているのか。その内訳（中等症、重症）も教えてほしい。
- ・情報が共有されていなければ、大阪市から博覧会協会の方に情報を共有するように指導してほしい。（意見のみ）
- ・8月13日の晩に発生した大阪メトロ中央線の事案では結果的に多くの熱中症患者が発生したが、今回の事案を総括して再発防止に向けて博覧会協会に指導してほしい。（意見のみ）

本市説明概要

- ・博覧会協会から会場内で発生した事案の詳細について共有がないので把握できない。

（3）救命講習等について（項目番号2.④）

団体要望概要

- ・万博会場内のAED設置状況について教えてほしい。
- ・AEDの使用方法は難しいと思うが、関係者は講習や研修を受けているのか。
- ・会場内でのAEDの使用状況を教えてほしい。
- ・4月当初に西ゲート付近で来場者が亡くなられた事案があったが、AEDは使用されたのか。
- ・その時の事案内容等を公表して、来場者が安心して来場できるようにしてほしい。（意見のみ）

本市説明概要

- ・万博会場内にはAEDを多数配置しているとともに、警備員も多数配置され医療救護施設8カ所と医療スタッフも勤務しているため、一般地域より医療救護体制は整備されており、急病事案が発生しても早い段階で医師の診療を受けることができる。
- ・会場内で勤務されるスタッフへの講習や研修は実施されていると伺っている。
- ・会場内にはかなりの台数のAEDが設置されており、AEDが必要だと思われる事案が発生した場合、その発生場所近くの警備員等がAEDを持参して応急措置ができるAEDGOというアプリを導入している。このAEDGOを発動した件数は数十件あるも使用には至っていないと聞いている。
- ・先程ご説明した医療救護施設8カ所にはそれぞれ救護隊が配置されていますので、当該事案の際も通報があった最寄りの救護隊が対応している。

(4) 万博会場での感染症対策と感染症が出た場合の医療救護体制、

大規模災害時の対応について（項目番号 2. (5)

団体要望概要

- ・会場内の診療状況、感染症発生状況はどうなのか。
- ・関西広域連合のドクターへリが運行できていないと報道されているが、大きな災害が発生した場合の対応はどうするのか。
- ・ヘリの離着陸場所はどうなっているのか。
- ・消防艇は何人乗れるのか

本市説明概要

- ・感染症は病院に行かれて医師から発生届が提出されてわかる。万博協会では、会場内の診療所では、COVID-19 とインフルエンザは抗原検査できるキットを置くと聞いている。例えば、診療所の先生が麻しんを疑い発生届を提出されれば、検体を採取していただいて保健所が行政検査を行うことはある。
- ・神奈川県在住の方が感染の可能性のある時期に万博に来場されたため、幅広く注意喚起するために公表した事例はあった。
- ・府と市で大安研に万博感染症解析情報センターを設置しており、様々な感染症など異常な動きがないかモニタリングしている。
- ・ドクターへリが運行できない状況であれば、消防ヘリ等の活用も検討する。
- ・大規模災害等が発生した場合、ヘリの離着陸は障害物等がなければどこでも可能であるが、緊急時には万博会場内の空飛ぶクルマポートを使用することはできる。
- ・消防艇には救急処置室も備えているため、緊急時の場合、活用することはできる。

(5) 医薬品・医療器材の整備状況、災害時医療体制について（項目番号 3. ②④⑤）

団体要望概要

- ・熱中症などで患者が増えてきた際に、輸液セットが足りるのか、医薬品がこれで足りるのかは誰が判断するのか？
- ・看護師がトリアージを担当し、問診をして診療所に引き継ぐかどうかの判断をすることになっているが、看護師の精神的負担は非常に大きい。愛知万博の時にはテレビ電話で医師と連携していたらしいが、今回そういった対応は行っていないのか疑問だ。
- ・災害時は全員が西診療所に集まることになっているが、北診療所や東診療所のスタッフもその場を離れて大丈夫なのか。もし可能ならベッドも全て持っていくべきなのかどうかも気になる。
- ・大規模災害時にはドクターへリの確保は難しいのではないか。その場合、大量搬送には自衛隊のヘリを使用することになると思うが、そうした想定はされているのか。
- ・今回は特別な出来事がなかったので 3 万人が現地に留まる対応になったが、何かが起きて外に避難しなければならない場合、そのような場合についても想定しているのか。
- ・備蓄があるとは聞いていたが、今回のメトロ運行停止時には朝 4 時まで配布が遅れた。備蓄配布の判断や関係機関との連携が適切にできていたのか疑問が残る。協会任せでは

不安だ。

本市説明概要

- ・万博協会内で判断されることになる。なお、本市としては、災害時に医薬品が不足する事態が生じた場合は、要請に基づき本市の備蓄医薬品を供給するなど対応してまいる。
- ・危機管理センターには、CMOと呼ばれる医療統括責任者のドクターが1名おり、無線を介して現地の看護師さんと連携している。判断に困るときには CMO のドクターが判断している。
- ・集団災害時のことだと思うが、ベッドの搬送などは聞いていないが、西診療所に集中することは聞いている。
- ・会場内では、自衛隊のヘリの着陸も想定されおり、大型ヘリは EXPO アリーナを想定している。消防ヘリ、ドクターへリは空飛ぶ車の発着場が想定されている。
- ・夢舞大橋や夢咲トンネルは耐震性があり、一定被害はない想定しているが、点検や、万が一被害が発生し通行できない場合は、船やヘリでの搬送も想定している。ただし全員を搬送するということではなく、緊急に傷病者の搬送が必要な場合には、ヘリ等の搬送を考えていく。会場内には、一定の備蓄があり、留まっていたらなければならない場合は、それらを活用して留まつていただくことになる。
- ・地震などの大規模災害時に会場内で帰宅困難者が多数発生した場合に、大阪市の災害対策本部と連携をとるために常駐している。13日の件は、列車が停止したというもので地震等の大規模災害ではなく、協会の備蓄をどのタイミングで配布するというのは、協会の判断になる。